

○事業所名	リハビリセンターおゆみ野		
○保護者評価実施期間	2025年1月1日		～ 2025年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	2025年1月1日		～ 2025年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との日常的な情報共有・面談・支援計画の説明が高く評価されている	毎回の支援後に保護者へのフィードバックを丁寧に行い、変化や成長を具体的に伝えている。個別支援計画を毎回更新し、保護者に内容を説明しながら合意を得るプロセスを徹底している	計画の内容をより視覚的・具体的に伝えられるよう、図や写真を活用した説明資料を整備し、保護者の理解度をさらに高める。定期面談の記録を活用して継続的な支援に繋げる
2	支援プログラムの立案・実施・記録・モニタリングの体制が従業者間で共有されている	支援開始前の職員打ち合わせを毎回実施し、役割分担と支援内容を全員で確認している。記録・モニタリングを定期的に行い、計画の見直しに繋げる体制を整えている	支援終了後の振り返り打ち合わせを全職員が参加できるよう定例化し、気付きの共有と支援改善のサイクルを強化する
3	保護者への相談対応・情報伝達・個人情報管理への取組が高く評価されている	保護者からの相談を随時受け付ける体制を整え、迅速かつ丁寧に対応している。個人情報の管理・情報伝達に関する職員研修を実施し、組織全体での意識統一を図っている	HP・SNS等を活用した情報発信のさらなる充実を図り、保護者が事業所の取組を日常的に把握できる環境を整える。発信内容の計画化と担当者の明確化を進める

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所・幼稚園等との交流・地域の他のこどもとの活動機会が不足している	事業所の利用時間帯や支援体制上、他施設との連携・交流プログラムを組み込む余裕が十分でない。地域の保育所・幼稚園等との関係構築が進んでいない	年間計画に交流活動を位置づけ、近隣の保育所・幼稚園との担当者会議や合同活動の機会を意図的に設ける。インクルーシブ支援の観点からの研修を実施し、職員の意識向上を図る
2	父母の会・保護者同士の交流機会・きょうだい支援が十分でない	多様な家族構成・就労状況への配慮から、全保護者が参加できる会の開催が難しく、きょうだい向けイベントの企画・実施の体制が整っていない	保護者ニーズを把握した上で、参加しやすい時間帯・形式(オンライン・少人数等)での保護者交流の場を設ける。きょうだい向けのイベントを年1回以上計画化し、告知を強化する
3	支援終了後の振り返り・外部評価・研修機会が不十分	日々の支援後に全員で振り返りを行う時間・体制が確保できていない。外部評価の仕組みが未整備で、研修参加の機会も職員によって差がある	支援後の短時間振り返り(5～10分)を毎日の業務フローに組み込み、記録と連動させる。外部評価の導入に向けて調査・検討を行い、法人内外の研修参加計画を年度初めに策定する

○事業所名	リハビリセンターおゆみ野		
○保護者評価実施期間	2025年1月1日		2025年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2025年1月1日		2025年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画の質・支援プログラムへの評価が極めて高く、専門性ある支援が保護者に評価されている	アセスメントに基づく個別支援計画の作成を徹底し、保護者への説明と同意取得を毎回丁寧に実施している。支援プログラムを定期的に見直し、こどものニーズに合わせた柔軟な活動を提供している	支援計画の内容をさらにわかりやすく伝えるため、図や写真を活用した説明資料を作成する。支援の成果を定期的に保護者と振り返り、こどもの成長実感を高める仕組みを整備する
2	保護者との日常的な情報共有・相談対応・意思疎通への取組が高く評価されている	送迎時・連絡帳・SNS等を通じて毎回その日の様子を伝え、保護者が安心して子どもを任せられる関係を継続している。相談があれば迅速に対応できる体制を整え、保護者の声を支援改善に繋げている	SNS・HP等を活用した情報発信の定期化を進め(従業者Q42=5名全員)、保護者が日常的に事業所の活動を把握できる環境をさらに充実させる。モニタリング時の保護者面談の質を向上させ、満足度を継続維持する
3	こどもの安心感・通所意欲・満足度が高く、保護者の信頼関係が構築されている	こどもの特性とベースを尊重した個別対応を徹底し、安心できる環境づくりと職員との信頼関係の構築に注力している。ヒヤリハット共有・虐待防止研修等により安全・安心な支援環境を維持している	新規利用者の慣れ親しみ支援を体系化し、段階的なサポートプロセスを整備する。利用者ごとの通所状況を定期的に振り返り、通所意欲が低下した場合の早期対応フローを整える

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブ・地域の他のこどもとの交流機会が不足している	放課後等デイサービスの利用時間帯の制約から、放課後児童クラブ等との交流機会を設けることが難しい。地域との連携体制が十分に構築されておらず、他のこどもと活動する場の整備が遅れている	地域の小学校・放課後児童クラブと定期的に情報交換し、合同活動の機会を年間計画に位置づける。学校行事等への参加を通じたインクルーシブ活動を段階的に取り入れ、保護者への情報提供を強化する
2	父母の会・保護者同士の交流機会・家族支援プログラムの実施が不十分	多様な保護者の就労・生活状況への対応が難しく、全保護者が参加できる会の開催・家族支援プログラムの定期実施体制が整っていない。実施の必要性は認識しているが、スケジュール・担当者の確保が課題	年間計画に保護者交流の場(オンライン・少人数形式含む)と家族支援プログラムを明確に位置づけ、告知を早める。ペアレント・トレーニング等の情報提供を連絡帳・SNS等で積極的に行い、参加しやすい環境を整える
3	支援後の振り返り・外部評価・研修機会・PDCA参画が不十分	日々の支援終了後に全員で振り返りを行う時間・体制の確保が難しく、気付きや改善点の共有が不十分。外部評価の実施・研修参加のための時間と費用の確保が課題となっている	支援後の短時間振り返り(5~10分)を業務フローに組み込み、記録と連動させる。年度初めに研修参加計画を策定し、法人内・外部研修を計画的に実施する。外部評価の導入に向けた検討を開始する